

都市再生整備計画(第4回変更)

やめふくしま
八女福島地区

ふくおか やめ
福岡県 八女市

平成23年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	やめし 八女市	地区名	やめふくしまちく 八女福島地区	面積	119 ha
計画期間	平成	19	年度	～	平成	23	年度
				交付期間	平成	19	年度
					～	平成	23
							年度

目標

大目標:市民参加型の集客拠点や歩行者の回遊環境の整備・運営による市民・観光客の交流ゾーンの創造

- | | |
|------|--|
| 目標 1 | 歴史、文化、芸術など市民や観光客の交流拠点(コアとサテライトの形成)として創造し、中心市街地の賑わいを再生する。 |
| 目標 2 | 歩行者の快適な回遊空間を整備し、市民と観光客による多様な交流を促進する。 |
| 目標 3 | 市民のまちづくり活動や文化活動と連携し、市民と行政が協働する地域づくりを推進する。 |

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・本地区は、本市の中心市街地であり、本市及び八女郡の生活、文化の中心として形成され、市役所、市町村会館、文化会館をはじめとする多くの公共施設が集中立地すると共に、伝統的建造物群保存地区等の魅力的な観光資源を有している。また、郊外店舗の立地進行に伴って、既存商店街は空洞化、高齢化等が進行しているが、昭和30年代の雰囲気を残す土橋市場や旧土橋商店街木造アーケード等が残り観光資源として注目されている。さらに、中心市街地に隣接して歴史的価値を有する元福岡県工業技術センター材料開発研究所跡や坂本繁二郎アトリエ跡が存在する。
- ・新市基本計画(平成18年10月に上陽町と合併)においては、八女福島地区を新市の中心市街地と位置づけ歴史・伝統を活用しながら、公共施設の集中立地、市民団体と行政の協働による町並み整備、中心商店街の活性化、住宅地区のスプロール抑制等を図るとしている。また、都市計画マスタープランにおいては、伝統、文化、交流をキーワードとして土地利用の誘導、道路・公園などの都市施設の整備、都市景観の形成等を図るとしている。
- ・本地区では、街なみ環境整備事業、伝統的建造物群保存地区整備事業等による町並み整備を進めている。これらの事業等を契機として民間のまちづくり団体によって、「伝統的建造物等の修理・修景事業の相談、修理技術等の研修・継承」、「町並みボランティアガイド」等市民参加と協働によるまちづくり活動が継続的に進められている。さらに、「町屋まつり」、「横町町屋交流館企画展(年を通して)」などのイベントも継続的に開催しており、市民のまちづくり意識が高揚している。
- ・八女筑後広域市町村圏事務組合の広域事業として建設された市町村会館が市に移管された。市町村会館に関する市民アンケート調査によれば、市町村会館の役割として、「八女地方を代表する市民交流やコミュニティ醸成の拠点」としての活用を望む回答が多かった。市民意向等を考察すると、市町村会館は、劇場としての機能のみでなく多様な利用が可能な施設としての活用が望まれているものと思われる。
- ・また、福映跡地(市有地)の活用については、平成13年度に「低・未利用地有効活用促進臨時緊急調査」を実施したが、駐車場としての暫定利用に留まっている。

課題

- ・空洞化が進行する本地区においては、歴史・伝統等の観光資源の有効活用、市民や観光客の交流拠点整備、官民協働の地域づくり推進による中心市街地の活性化が課題である。
- ・市民アンケート調査にみられる現在の市民ニーズにあった集客機能の整備、観光機能の強化、既存の都市機能との連携により、中心市街地の交流人口の増加を図ることが必要である。
- ・また、土橋市場等商店街の再生、元福岡県工業技術センター材料開発研究所跡や福映跡地等市有地の有効活用等地域のまちづくり資源の活用が望まれる。
- ・本地区には、国道442号の歩道、都市計画道路大島福富線の歩道、街なみ環境整備事業(事業中)によって、東西方向の歩行者動線は形成されているが、中心市街地全体のアメニティーの向上のためには、公共施設が集中立地するシビックゾーン、伝統的建造物群保存地区、伝統工芸館等の観光施設を結ぶ南北方向の歩行者動線の整備や、人の集う憩い空間として公園整備を行い、回遊性のある歩行者ネットワークを形成する必要がある。
- ・本地区には、まちづくり市民団体が多数あり、今後もさらにイベントやボランティア等への一層の市民参加による市民と行政が協働したまちづくりが望まれている。

将来ビジョン(中長期)

- ・新市基本計画では、新市の中心市街地は「①歴史・伝統を観光資源等として活用、②公共施設・商業施設などの集中配置、③地元住民・NPOなど市民団体と行政の協働、④住宅地区のスプロール化抑制、⑤中心商店街の活性化の観点で整備を図る」と位置づけている。
- ・都市計画マスタープランでは、「伝統文化を素材にして 老若男女がつむぐ元気でおしゃれな福島を目標像として、新しい生活文化発信拠点(伝統的な町並み、伝統工芸・伝統文化、多様な世代が集い交流)」と位置づけている。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地域交流センターの入場者数	人	地域交流センターの入場者数	地域交流センターの入場者数(従前値については市町村会館の入場者数)とする。集客力の向上を図り、交流人口の増加を目指す。	98,552	平成17年度	124,000	平成23年度
観光入り込み客数(伝建地区、八女伝統工芸館、手すき和紙資料館(の会社))	人	商工観光課調査、施設入場者数	観光産業の振興を目指す。(波及効果)	167,867	平成17年度	184,000	平成23年度
市民のまちづくりへの参画状況	%	行政評価における市民の納得度に関するアンケート調査(市民のまちづくりへの参画状況について)	まちづくりへの市民参加の向上を目指す。	52.74	平成17年度	56.00	平成23年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1:【市民や観光客の交流拠点(コアとサテライトの形成)整備、中心市街地の賑わいを再生】 《コア》:中心市街地再生の起爆剤として、周辺町村(八女郡)を含む市民活動の拠点、市内観光の拠点を整備し、交流人口の拡大を図る。このため、地域交流センターを整備し、コア施設としての機能の充実を図る。なお、地域交流センターは地域防災計画に避難所として位置づける。 《サテライト》:地域交流の拡大を図るため、歴史的な町並みや伝統工芸館など観光施設(既存のサテライト)と連携すると共に、近代化遺産である元福岡県工業技術センター材料開発研究所跡、昭和30年代の雰囲気を残す土橋市場や旧土橋商店街木造アーケード、福映跡地等の市有地を活用し、文化、物販等のサテライトを形成する。</p>	<p>高次都市施設(基幹事業/地域交流センター、市) 既存建造物活用事業(基幹事業/地域交流センター、市) 地域創造支援事業(提案事業/福映跡地・市有地活用調査、市) 地域創造支援事業(提案事業/昭和のまち再生事業、市) 地域創造支援事業(提案事業/元福岡県工業技術センター材料開発研究所跡整備、市) 地域創造支援事業(提案事業/八女伝統工芸館物産館整備事業、市) 重要伝統的建造物群保存整備事業(関連事業、市)</p>
<p>整備方針2:【歩行者の快適な回遊空間を整備し、市民と観光客による多様な交流を促進】 ・東西方向の歩行者の動線は整備(一部事業中)されているが南北方向の歩行者の動線は未整備であり、公共駐車場、地域交流センターと各サテライトや伝統的建造物群保存地区などの観光施設等を結ぶ「歩行者に優しい道路」(南北方向の歩行者の動線)を整備し、併せて人の集う憩い空間として公園等を整備することで、人々の交流を促進すると共に、中心市街地の回遊性の確保を目指す。</p>	<p>道路(基幹事業/市道・杉町高塚線/市道・荷稻五丁野線、市) 公園(基幹事業/八女公園、市) 高質空間形成施設(基幹事業/照明施設、市) 地域創造支援事業(提案事業/元福岡県工業技術センター材料開発研究所跡整備、市) 地域創造支援事業(提案事業/地域交流センターオープニングセレモニー事業、市) 街なみ環境整備事業(関連事業、市) 街路事業(関連事業/都)杉町高塚線、県)</p>
<p>整備方針3:【市民のまちづくり活動や文化活動と連携し、市民と行政が協働する地域づくりを推進】 ・現在、まちづくり団体等市民と行政との連携、協働によるまちづくりを推進しているが、今後は八女福島の景観形成のための計画を策定し、福映跡地(市有地)、土橋市場や旧土橋商店街木造アーケード等の地域資源の有効活用に向けた調査研究及び社会実験を行い、より市民意向を踏まえたまちづくりを目指すとともに、各まちづくり活動の連携を含め、総合的なまちづくりの指針となる中長期的計画策定に向けた調査研究を行う。</p>	<p>地域創造支援事業(提案事業/地域まちづくり交流と資源活用に係る調査、市) まちづくり活動推進事業(提案事業/社会実験事業、市) 地域創造支援事業(提案事業/福映跡地・市有地活用調査、市) 地域創造支援事業(提案事業/昭和のまち再生事業、市)</p>
<p>その他</p>	
<p>～茶と歴史の郷くに)の都(みやこ)づくり:歴史と文化と市民による交流回廊物語～</p> <p>【事業概要】 ■整備方針1 コア施設:【高次都市施設】(地域交流センター整備事業)、【既存建造物活用事業】(地域交流センター整備事業、中央公民館の建物を活用)地域交流センター(高次都市施設)は、シビックゾーンの中核、芸術文化の交流拠点、伝統的建造物群保存地区等の観光の拠点となるコア施設として、多目的ホール、イベントホールの整備、観光交流の情報発信ロビー、リハール室、カフェ等を整備する。また、地域交流センター(既存建造物活用)は、文化芸術等市民活動の育成・学習・交流等の拠点として、市民活動交流スペース、ボランティアルーム、八女市緑の芸術家の作品展示場等を整備する。なお、地域交流センターは、耐震強化を行い防災機能を有する拠点として整備し、地域防災計画に避難所として位置づける。</p> <p>サテライト施設:【地域創造支援事業】(福映跡地・市有地活用調査) 暫定利用:観光客が車等で訪れ、コミュニティバス、ベロタクシー等で市内のコア施設やサテライト施設等へアプローチできるパークアンドシャトルバスライドの起点となる駐車場等への福映跡地等の活用について調査研究を図る。 恒久利用:人に優しい居住支援施設等将来の利活用について事業者等へのアイデア募集等を通じて調査研究を図る。</p> <p>サテライト施設:【地域創造支援事業】(昭和のまち再生事業) 昭和30年代の雰囲気を残す土橋市場や旧土橋商店街木造アーケードの再生を契機とした中心商業地活性化方策(昭和時代のデザインをコンセプト)を検討し、チャレンジショップ等まちづくり活動を支援する。</p> <p>サテライト施設:【地域創造支援事業】(元福岡県工業技術センター材料開発研究所跡整備事業) 元福岡県工業技術センター材料開発研究所跡を買収し、人々が集い・交流する場として活用するための整備を行う。</p> <p>サテライト施設:【地域創造支援事業】(八女伝統工芸館物産館整備事業) 観光施設である八女伝統工芸館の機能強化および観光情報発信力強化のため隣接する敷地を買収し、物産展示施設を整備する。</p> <p>■整備方針2 交流連携軸の整備:【道路】【公園】【地域生活基盤施設】【高質空間形成施設】 市民や観光客の交流の軸となる歩行者に優しい道路、休憩の場、情報板、照明施設を整備する。</p> <p>交流の促進:【地域創造支援事業】(地域交流センターオープニングセレモニー事業) 地域交流センターのオープニングに併せ記念イベント等セレモニーを八女福島計画区域内全域において実施することで、人々の多様な交流の促進を図る。</p> <p>■整備方針3 【まちづくり活動推進事業】(社会実験事業) 「地産地消でスローライフのまちづくり(地域再生計画)」を踏まえて、地域交流センター等において地場産品の開発およびアンテナショップの実証実験を実施する。町並みゼミ参加者のアンケートを活用して「八女ファン倶楽部」を設立し、継続的な交流を通じてフード交流実験を実施する。コミュニティバス、ベロタクシー等の実証実験を実施する。</p> <p>【地域創造支援事業】(地域まちづくり交流と資源活用に係る調査) 八女福島地区の景観計画の作成、新八女市のコンパクトシティ構築や新市都市構造構築を念頭においた八女福島地区の総合的なまちづくりのための中長期的な計画としてのアクションプログラムを検討する。</p> <p>《関連事業》 八女福島重要伝統的建造物群保存整備事業、街なみ環境整備事業、(都)杉町高塚線の街路事業により、町屋の修復、歩行者のための道路・広場等の整備を図る。</p> <p>《事業への取り組み状況》 平成18年10月の合併後も継続して横断的連携を図りながら計画を作成した。事業推進、まちづくりに当たってもハード、ソフト両施策の連携を図っていく。(横断的組織:商工観光課、生涯学習まちづくり課、建設課、会計課、健康課、福祉課、総合政策課) 平成18年10月に開催予定の町並みゼミにおいて、アイデア募集を実施</p>	

都市再生整備計画の区域

八女福島地区(福岡県八女市)	面積 119 ha	区域 八女市本町、本村、稲富の各一部
----------------	-----------	--------------------

